

# 福井県産の米・麦・大豆と クーベルチュールチョコレートの 贅沢なコラボレーション

## 横井チョコレート 株式会社

- 代表者名
- 所在地
- 認定区分
- 認定事業名
- 認定日

代表取締役 横井 孝治  
福井県福井市高柳1丁目2101番地  
農商工連携  
福井市産農産物を活用したチョコレート加工品の  
開発・製造・販売  
平成28年7月

### 好調なチョコレート市場

全日本菓子協会が2019年4月に発表した2018年のチョコレートの小売金額は、5,370億円である。チョコレートの市場は2011年からほぼ堅調に拡大し、菓子市場の首位に君臨する。

チョコレートに含まれるカカオポリフェノールには、血圧低下や動脈硬化予防、美肌効果、アレルギーの改善などの効果、効能が見込まれる。消費者の健康志向の高まりからハイカカオ商品が好調だ。また、カカオ豆の産地や製法にこだわった「Bean to Bar」チョコレート、自分自身へのご褒美として的高级チョコレートなど、大人をターゲットにした嗜好品となってきたことも市場成長を支える要因となっている。

今回、ご紹介する横井チョコレート株式会社（福井県福井市）は、自社製造オリジナル商品



横井 孝治 代表取締役

のチョコレート専門メーカーである。2016年に、菓子卸を営む株式会社横井商店の製造部門を独立させ法人化した。福井県特産の良質な素材と自社製造のクーベルチュールチョコレートを強みに、日本一の商品づくりに取り組んでいる。

### 福井県の特産物を使った 『福井の実り』シリーズ

同社商品の特徴は、大きく2つある。

1つ目は、クーベルチュールチョコレートの自社製造だ。クーベルチュールチョコレートは、ケーキなど製菓の仕上げに使われる、脂肪分の高いチョコレートである。「総カカオ固形分35%以上、カカオバター31%以上、無脂カカオ固形分2.5%以上、カカオバター以外の代用油脂は使用不可」という厳しい国際規格をクリアしたものがクーベルチュールとして認められている。市販のチョコレートはカカオバターの代用として安価な植物油が使われることが多いが、同社はガーナ産カカオ豆を特別に配合し、添加物を一切使わない。また、機械での製造だけでなく、温度の管理や材料の混ぜ込みなどの各工程に人の手をかけ丁寧に仕上げることで、口どけなめらかなチョコレートとなる。

2つ目は、国産の良質な素材を厳選していることだ。横井社長曰く、商品開発のポイントは「こだわりを1つ入れて、良い素材を使うこと」とシンプルだ。そのこだわりは、並大抵ではな

い。京都のきなこや福井県的小麦粉など、国産で安心・安全な原材料を求めて、社長自ら全国へ足を運ぶ。お客様からの要望に応じて開発することも多く、年間2～3種類は新商品を発表している。



『福井の実り』シリーズ

2018年に福井県特産物をクーベルチュールチョコレートで包んだ『福井の実り』シリーズを開発、製品化した。これは地元の農産物を活用し、特徴を持ったチョコレートを開発したいと考えていた同社と、福井市産農産物の販路拡大を目指すJA福井市が、農商工連携を組んで進めた。

選んだ素材は、生産高日本一の“六条大麦”、福井県が発祥とされる“コシヒカリ”、そして福井県産“大豆(里のほほえみ)”の3種類である。

連携においては、製造工程の見直しによって光沢剤不使用とクーベルチュールの一般市場流通化を実現させた。また、目に付きやすい、商品内容がわかりやすい、買いやすいパッケージづくりにより、福井市の新たな特産品として地域活性化が期待される商品となった。



福井県産小麦にこだわったプチチョコラスク

## 販路開拓の取組み

2018年から「FOODEX」や「スーパーマーケット・トレードショー(SMTS)」などの展示会、

地銀や信金のビジネスマッチングイベントへ積極的に出展している。「SMTS」では毎年、福井県の共同ブースでPRを行ってきた。それをきっかけに、大手百貨店や成城石井など高品質なスーパーマーケットなどとの取引にもつながっている。また、生協の宅配専用品や首都圏のコンビニエンスストアでの取扱いも増えてきた。

お菓子は毎年多数の新商品が発表される。たとえ商品が棚に並んでも、すぐに入れ替わる競争が激しい業界だ。そのようななか、横井社長は「独特に、しっかりと、2～3年かけてゆっくり売っていくような所と取引をしたい」と語る。

商品ラインナップは30～40種類と増え、生産量も年々増加している。2020年はさらに営業を強化させていく方針だ。

## 今後の展望

今後は国内だけでなく、海外展開を視野に入れている。目標はヨーロッパ進出だ。ドイツだけでも日本の10倍ものチョコレート消費量があるともいわれており、市場は広い。横井社長がクーベルチュールチョコレートの製造に取り組んだ時から、「福井県産、そして日本のものを海外へ、というのが最初の夢」と熱く語る。

夢は世界へと広がるが、なによりも安心・安全な商品づくりの軸は一貫している。ブランド力をしっかりさせ、コンセプトをもって良い商品をつくること。そのうえで、100年企業に育てていきたい、という。

新たな商品開発と販路開拓に常にチャレンジを続ける同社の今後に注目したい。

農商工  
地域資源活用  
新連携の認定事業計画  
検索はコチラ ▶▶▶



独立行政法人 中小企業基盤整備機構  
経営支援部 企業支援課 今里 真梨子